

# Julian Shore & Max Light

[Profile]

Julian Shore ジュリアン・シヨア : piano



アメリカのロードアイランド出身。

ピアニスト、作曲家。

幼少の頃から父親が自宅のピアノでバッハを演奏するのを聴いたり一緒に歌ったりして過ごした影響で早くにピアノを弾きはじめる。母親は「リッチフィールド・ジャズ・キャンプ」に彼を参加させ、最初は生徒としてそして今ではピアノを教える側になっている。2005年にバークリー音楽院から全額奨学金を授与され入学する。

入学後はダニロ・ペレス (Danilo Perez) に師事し「パナマ・ジャズ・フェスティバル」招待される。

バークリーを卒業後、2009年にニューヨークに活動の拠点を移しヴォーカルのグレッチェン・パーラートのバンドに参加し「ストックホルム・ジャズ・フェスティバル」など世界各地で演奏する。

ダウンビート誌ではピアニスト、作曲家、バンドリーダーとして”成熟の絶頂期にいる”、JazzTimes誌では経験豊富なバンドリーダーとしてだけでなく、サイドメンとしてもヤング・ジャズ・シーンを牽引している最も重要な一人として絶賛している。

ニューヨークを中心として自分のグループだけではなく、Grechen Parlato, John patitucci, Brian Blade, Chris Speed, Caroline Davis, Noah Preminger, Sara Gazarek 他、たくさんのミュージシャン達とカーネギー・ホール、ケネディ・センター、ジャズ・アット・リンカーン・センター、ブルーノート等で共演し、アメリカをはじめヨーロッパやアジアの多数のジャズ・フェスティバルに出演し、ニューヨークのジャズシーンでファースト・コールのピアニストの一人として活躍している。

Max Light マックス・ライト : guitar



ワシントン DC の生まれ。ジャズギタリスト兼作曲家。

ニューイングランド音楽院で学士号を取得し、クイーンズカレッジのアーロン コープランド音楽院で修士号を取得している。

その巧みなテクニックと現代的なアプローチで2019年のハービー・ハンコック インスティテュートオブ ジャズ インターナショナル ギター コンペティション (旧 セロニアス・モンク コンペティション) でファイナリスト (2位) として、審査にあたったパット・メセニー、ジョン・スコフィールド、リオネル・ルエケ、ラッセル・マローン等に正統派ジャズ・ギタリストとして圧倒的な支持を得る。

Max は批評家に称賛され高い評価を得たのち、2020年に Red Piano Records からデビューレコーディング「Herplusme」をリリースする。

ノア・プレミンガー、ダニー・マッカスリン、ジェレミー・ダットン、ジェイソン・パーマー、ジョン・エリス、ダン・ワイズ、コリン・ストラナハン、ボビー・ワトソン等と共演しレコーディング行ったりツアーで世界中を回っている。

ギターのライジング・スターとして大きな話題と期待を一身に背負いニューヨークを拠点にファーストコールのギタリストの一人となって大活躍をしている。